

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成28年5月26日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0871200218		
法人名	医療法人 永慈会		
事業所名	ひたちの森太田	ユニット名	さくら
所在地	〒319-1413 茨城県常陸太田市磯部町90-1		
自己評価作成日	平成27年9月7日	評価結果 市町村受理日	平成28年6月3日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kihon=true&JigyosyoCd=0871200218-00&PrefCd=08&VersionCd=022
-----------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成27年11月20日	評価機関 決 済 日	平成28年5月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

グループホーム理念「スタッフは入居者様に優しい対応をいたします」「私達は入居者様に家族同様に接し、家庭的な環境の中で生活出来るように支援します。」「地域の一員として関わりを持ち、地域資源を共有しながら生活して活けるように努めます。」を基本とし、入居者様一人一人が自分らしい生活を送る事が出来るように、施設内でのレクレーション活動を始めお花見、リンゴ狩り、花壇の手入れ、野菜作りを実施しています。また、施設外では地域常会、近隣施設との交流を図ると共に、母体である永井病院の企画する夏祭、餅つき等のイベントに積極的に参加し入居者様は元より家族の方にも満足して頂けるよう日々、努力しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

医療機関を母体とした法人代表者が、福祉で地域に貢献したいという思いで設立した事業所であり、法人内に小規模多機能型居宅介護施設など様々な福祉施設を有し、利用者の身体状況に応じた柔軟な対応ができるようになっている。

事業所の一階にある小規模多機能型居宅介護施設には、約10種類のリハビリマシンが備えてあり、医療スタッフ指導のもと、利用者は自由にリハビリを行うことができ、筋力維持と気分転換に役立っている。

事業所は地域との交流を大切にしており、お祭りや公民館の講話などに参加したり、近隣の中学校と交流を交わすなど、地域の一員として生活を送っている。

管理者は職員と日頃より気軽に話し合える関係づくりを心がけ、職員同士は普段からよくコミュニケーションを図り、明るく生き生きと支援をしている。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	業務前及び業務終了後に理念を読み上げ全職員が理念を理解し共有できるよう日々、努めています。	「家庭的な環境の中で」や「地域の一員として」など、地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を作成し、入り口や事務室に掲示するとともに、朝礼時と就業時に唱和して全職員で共有し、実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティア・体験学習・インターシップなど積極的に受け入れるようにしています。地域の常会にも参加しており缶広い・草むしり等の地域での共同作業の他に行事への参加も行ってあります。その他、事業所独自でもイベントを企画し地域の方に回覧版を利用し広く地域住民へ呼び掛けを行うよう努めています。	事業所は自治会に加入し、地域住民との交流を大切にしている。 利用者と職員は、地域で開かれる公民館の講習会や祭りに積極的に参加するほか、天候のよい日には職員と近所を散歩し、地域住民と挨拶を交わすなど、地域の一員として日常的に交流している。 近隣の中学校の体験学習を受け入れたり、紙芝居やリハビリ体操などの地域のボランティアを定期的に受け入れ、地域との交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の方や見学に来られた方からの相談や質問などは相談者のお役に立てるように心掛けながら随時、介護支援専門員及びホーム責任者が対応しております。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の際の意見や要望は記録に残し改善やホームの向上に活かすようにしています。また、市の職員からの意見や民生委員の方からの意見も参考にしており、徐々にホーム自体が向上して行っているように感じられております。	運営推進会議は会議録を作成し、家族等の代表や市職員、地域包括支援センター職員、消防署員、警察署員、民生委員、他法人のグループホーム職員の参加者を得て、2ヶ月に1回開催している。 会議では事業所のサービスの状況を報告するとともに、参加者からは災害時における避難誘導のアドバイスをもらい、訓練に活かしている。 地域のボランティア情報や民生委員から出たプロの出張メイク体験等の企画を実行に移し、利用者に喜んでもらうなど、出た意見をサービス向上に活かしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	施設長及びユニット管理者が市町村の担当者とメールで遣り取りをしたり、此方から出向いたりしながら積極的に連携を図るよう努めています。	市職員は毎回運営推進会議に出席をしている。管理者は直接市の担当者へ2ヶ月に1回は出向き、入居状況や虐待問題に関する助言等を受け、気軽になんでも相談できる関係を築いている。運営上の質問や書類の作成などで疑問があれば直接市の担当者へ相談するほか、利用相談を受けるなど、協力関係を築きながら連携を図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設独自に勉強会を開催し全職員が学び身体拘束防止に取り組んでいます。また、外部で開催される研修や講義があれば積極的に参加して行くように心掛けています。	身体拘束廃止マニュアルを作成するとともに、内部研修を年1回行っており、玄関の施錠も含めて身体拘束をしないケアに努めている。代表者は現場において、職員に身体拘束に関する疑問点があればその都度指導し、全職員が身体拘束をしないケアを理解して実践するよう取り組んでいる。やむを得ず身体拘束をする場合に備え、家族等への説明書類や「同意書」、「経過観察記録」、「再検討記録」等を整備している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設独自に勉強会を定期的に開催し虐待防止について学びながら日々、虐待防止に全職員が一丸となり取り組んでいます。また、機会があれば外部で開催される研修、講義などに積極的に参加するよう心掛けています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内で勉強会を開催し全職員が知識向上に努め、それらを活かして行くようにしています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約時には入居者、家族の方に分かり易く説明し理解・納得をして頂けるように努めています。また、契約の際も納得して頂いた上でサインして頂くようにしています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ユニット毎に意見箱を設け入居者、家族の方が何時でも意見や苦情を伝える事が出来るようになっていきます。また、ホームにはユニット毎に苦情受付担当者も設けており苦情・意見の対応の他、運営に反映させるように努めています。	代表者は家族等に、毎月の事業所便りで意見や要望を出してもらえよう呼びかけるとともに、家族等から意見や要望が出た場合は直ちに対応し、意見や要望をなるべく汲みあげられるよう努めている。 家族等から、パート職員の待遇改善の提案を受け、賃金改正を行うなど、意見を運営に反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度リーダー会議を開く他、ユニット毎にも週に1回ユニット会議を実施し、その都度スタッフから出た意見を記録に残し運営に反映させていくように努めています。	代表者は週1回のユニット会議と月1回の職員会議で職員の意見や要望を聞いているほか、年に数回の食事会や日常的にもコミュニケーションを図りながら、自由に意見等を出し易い雰囲気づくりに努めている。 職員の提案で、空気清浄機等の備品を購入したり、勤務体制の変更や異動を適宜行うなど、職員の意見や提案を聞く機会を設けて運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が安心して働けるよう本部と連携を図りながら環境整備に努めています。また、運営者は実績・勤務状況を把握した上で個々に応じたアドバイスをを行っています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画作成をした後、研修に参加しています。また、研修終了後は報告書を作成し、研修内容を全職員に伝達するようにしています。その他に施設内で勉強会を開き現場で実践して行くように努めていると共に、個々の職員が働きやすいよう力量に応じた部署の配置に心掛けています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	同系列の施設交流の他、地域のGH連絡協議会へも参加し、同業者同士の情報交換を随時行いながら互いにサービスの質の向上を高められるように努めています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ホーム利用前に実態調査を行うと共に家族、本人に要望及び希望を聞きホームでの生活を支援する上で参考にしています。また、入所した時点で本人の話を聞き内容に応じて家族の方からの協力を得ながら対応するようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談の時点で家族の要望、希望及び困っている事などを聞き、その都度対応しています。また、入所後も家族の相談を随時受け付けており改善に向け適切な対応をするよう心掛けています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人は元より家族からの要望があれば、随時に対応するようにしています。また、入居者の状態や家族の要望を聞き、それらを基に介護方法を決めるようにしています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が入居者と共に食事をしたり、お茶を飲んだりしながら家族のような関係を築いていけるよう努めています。また、入居者と職員の間には壁を作らないよう配慮するようにしています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が面会に来た時は、お茶を出し家庭的な雰囲気の中で話ができるように配慮しています。職員も介護をする上で困った事が有れば家族の方に遠慮なく話し、家族の方と一緒に入居者を支援して行くようにしています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の友達や知人が何時でも逢う事が出来るようになっています。時々、ドライブなどに連れ出し以前住んでいた場所を散策したりして頂いています。	職員は利用者の家族等や知人の面会時には、お茶菓子などを出して寛げるよう積極的に支援している。利用者は家族等と一緒に外出し、墓参りに行くなどしている。職員は利用者の馴染みの物品を持ち込めるよう支援しているが、本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係をフェイスシートに記載するなどして、職員誰もが把握するまでには至っていない。	利用者がその人らしく生きるために、これまで培ってきた人間関係や社会との関係を把握し、フェイスシートやアセスメントシートに記載して全職員で共有し、馴染みの関係継続の支援に努めることを期待する。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いが楽しく生活出来るように、個々の入居者の性格、相性を考慮しつつ、入居者同士が楽しく生活出来るように援助しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後に相談が有った場合は、出来る限りのアドバイスなどをするよう心掛けています。また、契約終了時に心配事が有った本人及び家族の方へは施設側から連絡を入れるなどして解決に向けた支援を行うよう心掛けています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者と触れ合う時は、一人一人の人格を尊重し対応するよう努めています。本人がホームでの生活の中で何を思い、何を望んでいるのか全職員が観察、記録し本人の意思に沿った生活環境を作り上げるよう絶えず努力しています。	日々の関わりの中で、利用者一人ひとりの暮らしの希望や意向を把握している。 思いの表出が困難な利用者の中には、表情や仕草から推し測り、把握した希望や意向は「個人の想いノート」に記載して全職員で共有しながら、利用者本位に支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々の生活歴を念頭に入れ支援を行っています。利用前には家族、本人から在宅時の生活状況を伺いサービスに活かすようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活で本人が出来る事は、職員は出来る限り口出しせず本人に委ねるようにしています。また、日々の生活の中で絶えず心身の状態を観察し、状態に応じて対応するようにしています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画書を家族や本人に見て頂き、一緒に情報を共有できるように配慮しています。また、その都度家族、本人から意見や要望があれば、それに沿った計画をチームで取り組み作成するようにしています。	介護計画は利用者や家族等の意見や要望、医師の意見のほか、月1回の職員会議などで職員の見解を取り入れ、計画作成担当者が利用者の残存能力を大切に介護計画を作成している。 毎月モニタリングをして目標期間に応じた評価をし、6ヶ月毎に介護計画の見直しをしている。 利用者の状態に変化が生じた場合は、現状に即した介護計画に随時見直しをしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の日誌に、その時々々の状態や状況を記録し全職員で情報の共有を図りながら支援しています。また、状態に変化が見られた時は、その都度チームで見直しを行い統一した支援を実施して行くようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院が母体なので、家族及び本人からの要望が有れば医療機関に協力を依頼し、専門職のアドバイス等を参考にしながら支援を行うようにしています。また、施設内に設置してあるバイク（リハビリ器具）やマッサージ器を好きな時に利用できるようになっています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホームのイベント参加を積極的に地域の方へ呼び掛け一緒に行動して貰えるように働き掛けています。その他に近隣の公園へ好きな時に出かけたり、お店で買い物をして貰ったりと本人の妨げにならないよう配慮しながら支援しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当法人の母体が病院なので入居者及び家族の方は当法人を雇りつけの病院として希望し利用しています。他に入居者や家族の要望が有れば何時でも当法人以外の病院へ施設側で送迎し受診して貰うよう臨機応変に対応しています。	管理者は契約時にかかりつけ医を確認するとともに、家族等と協力しながら希望するかかりつけ医への受診ができるよう支援している。 家族等が付き添う場合には、身体状況を記録した介護要約の写しを手渡すとともに、家族等から報告された受診結果は「申し送りノート」に記載し、全職員で共有している。 協力医療機関の医師による訪問診療を支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当ホームは担当の看護職員が居り随時、入居者の心身の状態を報告しながら健康管理に努めています。また、現場スタッフもバイタルチェックを午前と午後実施する他、表情観察などを随時行い変化が有れば医療機関に直接報告する等して柔軟な対応をするよう心掛けています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	認知症療養病棟を持っている病院が母体のホームなので、常に入居者にとって最善の方法を医療機関と相談しながら対応しています。また、入居者が入院中は少しでも安心して頂けるようホームの職員が出来る限り顔を出すようにしたり、ケースワーカーを通じて入院時の状況（状態）を把握するよう努めています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事前に重度化及び終末期に向けた話し合いを主治医の指示のもと家族を交えて話し合いを行い家族の意向を把握するようにしています。また、本人の意向もホーム利用開始前後に、それとなく伺っておき重度化や終末期が訪れた場合、本人の意向を最優先で行えるように備えています。	事業所として出来ることと出来ないことを明記した「重度化した場合における対応に係る指針」を作成し、契約時に利用者や家族等に説明して意向の確認と同意を得、方針を統一している。 職員は看取り介護に関する内部研修に参加し、重度化した場合は協力医療機関と連携を図りながら看取りができる体制づくりを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを備えています。年に一度は地域の消防署の協力を得て実技の講習を受けたり、緊急時のマニュアルに沿った対応が出来るよう施設独自に勉強会を開催したりしながら緊急時に備えています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に1度、消防署の協力を得て避難訓練を実施しています。その他にホーム全体でも年に1度の避難訓練を実施すると共に一カ月に一度、夜間想定 of 緊急連絡及び避難訓練を実施しながら災害に備えられるよう努めています。	消防署立ち会いや夜間、水害を想定した避難訓練を地域住民の参加を得て年2回実施しているとともに、緊急連絡網による連絡訓練を毎月行っている。 訓練後に反省会を行い、訓練で明らかになった課題を記録に残し、次回に活かしている。 災害に備えて約3日分の米や飲料水、乾パン、カップめん、毛布、懐中電灯を備蓄しているが、備蓄品リストを作成して管理するまでには至っていない。	災害に備えた備蓄品は、賞味期限等を記載した備蓄品リストを作成して管理し、緊急時に備えることを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者への声掛けの際には、名前の語尾には「・・・ちゃん」付けをしないよう日頃から注意しながら声掛けを行っています。また、入居者と話す時も表情を観察しながら話し、本人が嫌がるような話は避けるよう日頃から留意しています。	職員は利用者の人格の尊厳やプライバシーを大切にし、利用者の名前を「さん」付けで呼ぶなど、言葉使いや態度に配慮した対応を心がけている。 入浴介助は一人ひとりで対応するほか、トイレのドアを閉めてそっと見守りするなど、プライバシーに配慮した支援をしている。 個人情報に関する書類は、事務室の鍵のかかる書棚に保管し情報漏洩に注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に自己決定を基本として対応しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日一対一で話し、本人が何をしたいのか、今日一日どう過ごしたいか等を聞き、職員は本人が1日を自分のペースで希望通りに過ごせるよう留意しながら支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日の気分に合わせて、お洒落を楽しんで頂けるよう配慮しています。職員はアドバイス程度に留めるようにし、最終的には本人に委ねるよう心掛けています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	家庭的な雰囲気の中で、職員と入居者が一緒に食事を作ったり、同じテーブルで会話を挟みながら楽しく食事が出来るよう配慮しています。片付けなども無理強いしないよう注視しながら声掛けを行っています。	自家菜園で育てたトマトやきゅうりなど、新鮮な野菜や家族等から頂いた旬の野菜を食材に加えている。 職員は利用者と同じテーブルに着き、同じ食事を摂りながら利用者を見守り、家庭的な雰囲気での食事のひとときを楽しんでいる。 利用者は能力に応じて野菜の皮むきやお盆拭きなど、食事の準備をしたり、簡単なおやつ作りにも参加して楽しんでいる。 寿司など利用者の希望を取り入れた行事食や、ホットプレートを使用したバーベキュー大会、屋外で食べるお花見弁当など、様々な食事が楽しめるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の記録用紙に食事量、水分量など毎日記録し、場合により管理栄養士の指導を受けるようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の声掛け、見守り、介助を通じ歯磨き、嗽、入れ歯の手入れを徹底しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握する為、プライバシーに留意しながら観察、記録を行い支援に活かすように努めています。また、排泄パターンや排泄の失敗の原因を究明し支援方法を定めるようにしており、紙パンツ及びオムツの使用を出来る限り減らせるよう努力しています。	職員は排泄チェック表により一人ひとりの排泄パターンを把握するとともに、全職員が排泄チェック表を確認しながらトイレで排泄できるように支援している。 退院後おむつを使用していた利用者が、トイレでの排泄を促すことで紙おむつになるなど、職員は排泄の自立に向けた支援を行なっている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分のチェックや運動に気を付けて対応しています。状態により主治医、家族と相談し整腸剤・下剤等で対応しています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入居者の希望に合わせて直ぐに入浴して頂けるよう準備をしています。また、入浴の際にも出来る限り寛いで頂けるよう入居者の意思に任せるようにしています。	入浴は1日おきを基本としているが、希望に応じて夜間でも入浴やシャワー浴ができる体制になっているほか、入浴の無い日は足浴支援を行ったりしている。柚子湯や菖蒲湯、林檎風呂など、季節感が味わえ、入浴が楽しみなものとなるように工夫している。入浴を拒む利用者には、足浴に変えたり声かけを工夫するなど支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	目に付きやすい所にお茶、急須、ポット等を準備しています。また、その日の気分で居間、居室、食堂等で休憩が取れるよう臨機応変に対応しています。睡眠に関しては内服に頼らず生活のリズムで修復するようにしていると共に、布団を定期的に干す等して出来る限り気持ち良く休んで頂けるよう努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人での服薬管理が難しい場合、職員が管理し適切な用法、用量を厳守しながら服薬支援に努めています。また、職員は個々の処方箋を確認したり、医師に尋ねる等して入居者の内服薬について理解するよう努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の個性・現在の能力を考え、その人の出来る事を支援しています。食器を洗う、洗濯物を畳む、掃除をする、新聞・雑誌を読む、工作活動をする、音楽を聴く、編み物をする等。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩やドライブの他、地域で実施している祭、イベントなど積極的に参加するようにしています。その他に年間行事の一環としても花見や地区外にドライブに出掛けたりと、出来る限り外へ出る機会を多く設けるように努めています。また、本人及び家族の方の要望が有れば何時でも外出や外泊が出来るよう臨機応変に対応しています。	天気の良い日には、事業所周辺の散歩や外気浴を兼ねた庭での食事のほか、ドライブを兼ねた外出を月2回程度行っている。 花見やかかし祭りなどの観光、葡萄狩り、梨狩り、いちご狩りなどを計画し、帰り道には利用者と普段立ち寄れない店でパンを買って帰るなど、利用者の希望を取り入れながら、楽しんでもらえるような行事計画を立てている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	出来る限り職員が関与しないようにし、入居者の希望通りに買物等して頂くようにしています。場合により職員が本人に代わり買い物に行ったりしながら、本人の要望に沿うよう支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話を各ユニットに配置しています。手紙も依頼が有れば本人に代わり代筆したりポストに出しに行ったりと臨機応変に対応するようにしています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じられるように装飾に工夫を凝らしたり、四季折々の花を飾ったりしながら家庭的な雰囲気が感じられるよう配慮しています。また、1F・2Fの中央フロアにも椅子、テーブルを設置し何時でも何処でも寛いで頂けるよう配慮しています。	居間兼食堂には、利用者と職員が外出した時やイベントでの楽しい写真のほか、書道の作品などを掲示しているほか、一角には小上がりの和室が設置されていたり、ソファを配置して明るくゆったりと過ごせる居心地の良い空間となっている。 観葉植物や菊の花を飾り、季節を感じ家庭的で落ち着いた雰囲気づくりとなるよう工夫している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	プライバシーに配慮しつつ自由に過ごせる居場所の確保に努力しています。廊下のスペースには椅子、机を配置し入居者同士のコミュニケーションが円滑に行えるよう配慮しています。	/	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人の趣味やこれまでの生活を重視し、安心して過ごして頂けるよう配慮しています。また、家族・本人の要望があれば在宅時に愛用していた物を持ち込んで貰い、自宅に居るような雰囲気の中で生活が出来るように支援するようにしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、エレベーター、浴室などに手摺が設備されており、日常常用されています。また、各部屋に洗面台が有り、自分で洗面や歯磨きなどが出来るようになっています。	/	

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある <input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまにある <input type="radio"/> 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2, 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3, 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 ひたちの森太田

作成日 平成28年6月3日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	8	入居前にこれまで培ってきた人間関係や社会との関係についての情報収集が乏しい上、フェイスシートにも生活歴などの情報の記録が少なく、職員間での情報共有が上手くなされて無かった。	利用者がその人らしく生きられるよう支援して行く為に入居前にこれまでの生活歴等の情報収集を行い、フェイスシートに記録すると共に全職員が情報を共有しながら支援を行っていく。	フェイスシートには現在の状況とこれまでの生活歴（人間関係や社会との関係）と分かり易く分けて記録する。また、全職員で情報を共有出来るようミーティングを行い記録に残し支援に活かしていく。	1 カ月
2	35	緊急時に備えた備蓄品や賞味期限が一目で分かるようなリストが作成されて無かった。	備蓄品リストを作成して置く事で非常食の賞味期限や備蓄品の品目チェックも定期的に行う事ができる。	リストは備蓄品の品目毎に賞味期限を記載し目に付き易い場所へ掲示して置く。チェックは半年に1度、実施し賞味期限切れの品は速やかに新しい品に交換しリストもその都度、内容更新を行っていく。	1 カ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。